

第5章

地域事例編

1 大阪府岸和田市

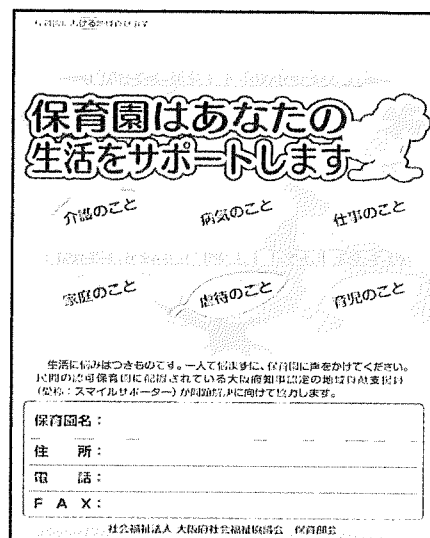
～スマイルサポーター（地域貢献支援員）の保育所での活動

土金新治

1. 大阪府の取組み 保育所の地域貢献支援員（スマイルサポーター）

1-1 スマイルサポーターとは

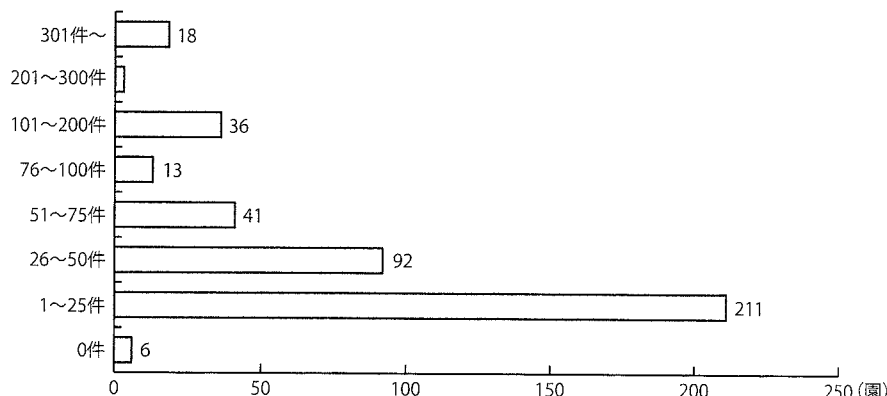
「悩んだ時は、保育園が力になります」大阪府社会福祉協議会・保育部会（会員数588ヶ園）では現在、各民間保育所の5年以上の実務経験がある保育士で、養成研修を修了した「地域貢献支援員（スマイルサポーター）」が子育て相談に加え、子育て相談以外の介護や病気、DVなどの様々な悩みや問題を抱えた方々への相談活動や支援、行政の担当窓口や専門機関への橋渡しなどをしたり、問題解決に向けた取組みを行っている。現在、大阪府内1,168名のスマイルサポーターが各保育園に在籍し、年間約48,981件の相談を受け付けている（平成24年実績）。



■相談件数に対して保育園が対応した数（平成25年度上半期4月～9月）

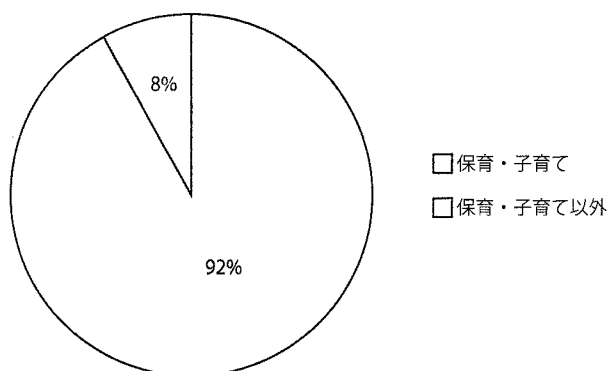
平成25年度上半期4月～9月までに、30,188件の相談を受けた。相談件数に対して保育園が対応した数は、下記の図のとおりである。

図：相談件数に対して保育園が対応した数（平成25年度上半期4月～9月）



■相談件数の内訳（保育・子育てor保育・子育て以外）

相談内容の内訳



1-2 でんわ育児相談から地域貢献支援員活動を始めのきっかけ

保育部会は、昭和57年に地域社会が期待する福祉活動を展開するうえで、女性の育児や就労に関する意識を把握することが重要であると考え、「1万人の女性の意識調査」を実施した。そのアンケート結果からは、子育てについてもっと気軽に相談できる窓口の充実を求めていることが分かった。そこで昭和59年から「でんわ育児相談」事業をスタートした。専門の研修を受けた女性園長や子育て経験のある保育士16名を保育部会事務局に交代で派遣し、電話での相談を実施する活動を行った。そして平成3年、育児相談でのノウハウを活かし、相談窓口をもっと身近なものにするために保育園を受け皿とする「育児相談員制度」を創設。さまざまな相談に対応できるスタッフを各園に数名程度配置していこうと、育児相談員の養成研修を実施し活動を行った。活動を続けていく中、平成19年に相談員対象に行ったアンケート等から、相談業務を行う中で保育・子育て以外の問題が複雑な要因となっているケースが多いことが分かった。たとえば育児放棄の問題を詳しく調査していくと、経済的理由、家庭内暴力、親自身に障がいや病気がある、家族に要介護者がいる…などが背景にあった。保育園だけでこれらの問題をすべて解決することは不可能であった。相談窓口としての機能にとどまらず広く地域社会に目を向け、各種公的サービスや社会資源、専門家との連携や人材を養成していくことが必要だろう、身近な存在である保育園がその地域のセーフティネットの一環を担う受付窓口となり、問題解決の橋渡しすることができないか。育児相談を超えたよろず相談窓口として「地域貢献生活サポート事業」がスタートした。

1-3 充実した養成研修

養成研修では、支援活動をより効果的に実施するために、保育士として通常求められる役割

よりもさらに幅広い知識やカウンセリングを学ぶ。地域の社会資源の理解や老人施設との連携等、地域の福祉全般に守備範囲を広げることを目的としているためである。研修講師には第一線で活躍する方々を招き、相談援助のポイントやロールプレイ、グループワークを多用し、年間15日間の講義を受講することによって資格を得ることができる。

1-4 スキルアップのための資格

平成21年度より大阪府知事認定資格となった。スマイルサポーターの資格を得た職員が在籍し、なおかつその保育園の代表者が園長研修を受講した折には、保育園の入り口に「大阪府知事認定スマイルサポーターがいる保育園です」と書かれた看板を掲げることができる。大阪府内の民間保育園全体で取り組むことで、住民に対する事業の浸透を図るとともに、相談に対する信頼を得ることにつながっている。

1-5 活動のポイントや工夫

保育園は、施設数も多く開園時間も長いため、地域の卒園児の保護者等、顔なじみの人々が日頃よりたくさん集ってくる。保育園は、住民が立ち寄りやすい身近な存在である。さらに交流事業により学校、老人・障がい施設と、園児の健康管理、虐待ネットワーク活動等により専門機関、行政とのつながりも多い。きめ細やかな子育て支援を行うことが可能である。スマイルサポーターが保育園にいるということは、このような保育園の特徴を生かすことができ、地域に開かれた相談窓口となることができる。

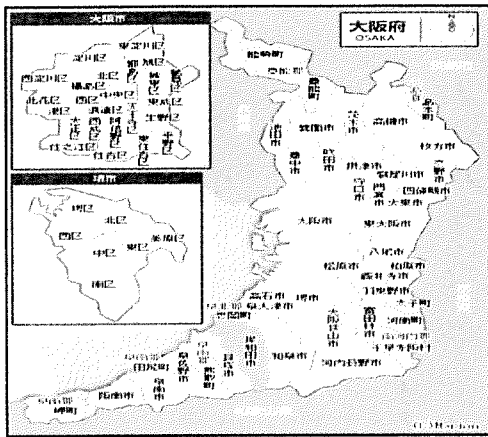
1-6 今後の課題

地域貢献事業は、子ども・子育て支援新制度の中でも、保育園が福祉問題の予防・発見におけるセーフティネットの一翼を担い、身近で頼れる存在と住民に認められ、社会に対し高い公益性を証明する活動になりうる事業である。

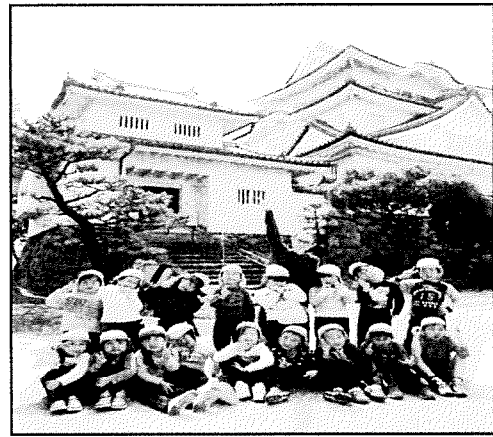
子育て全般を市場任せ、親任せにせず、身近にある保育園が蓄積してきた子育てに関するノウハウを提供し、積極的に様々な社会資源とネットワークを組み、関係者を巻き込みながら、制度のはざまにある福祉ニーズに対応していく姿勢こそ、本来地元に着した活動をしてきた社会福祉法人の得意とするところである。今から特別に何かをやるのではなく、日常より新生児からお年寄りまで幅広い年代が身近で訪れやすい場所としての利点を生かして、地域の人が集まる安全・安心の拠点になれるかどうか、今後保育園に求められるだろう。それには支援員の継続的な専門知識の向上を図り、地域に信頼される人材の養成が何よりも重要であり、資格取得後のフォローアップ研修を充実させていくことが今後の課題である。

2. 岸和田市の概要

大阪府岸和田市は大阪南部に位置し、都心とはまた違った独自の文化と形成過程を持った人口20万人程度の中規模地方都市である。大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置し、大阪都心から25km圏にあって、西は大阪湾に臨み、南部は和泉山脈を境として和歌山県に隣接している。岸和田市は、緑や農地、ため池などの水面が比較的良好に残り、「だんじりまつり」を核に地域社会のまとまりも失われず、町並みなど歴史的環境もよく保全され、職住一体のまちとして市民が地域と密着してきた伝統を引き継ぎ、地方都市の個性と良さが保たれている。



大阪府岸和田市の位置



岸和田城前にて

2-1 市内の保育園の現況

第1次次世代育成支援計画「きしわだっ子プラン」により、平成21年より5か所の公立保育園の民営化が行われ、平成25年4月1日現在は社会福祉法人立認可保育園23園、公立保育園11園の合計34園、定員3,705人、実員4,048人（入所率109%）、待機児童21名（待機率0.5）となっている。

市内の保育園数、定員、入所児童数の推移（平成21～25年度）

年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
園数	公	15	14	13	12	11
	民	19	20	21	22	23
	計	34	34	34	34	34
定員	公	1,640	1,520	1,420	1,300	1,180
	民	2,070	2,185	2,285	2,405	2,525
	計	3,710	3,705	3,705	3,705	3,705
入所者数	公	1,680	1,587	1,486	1,383	1,254
	民	2,258	2,355	2,509	2,615	2,794
	計	3,938	3,942	3,995	3,998	4,048

3. ^{ごふうかい}五風会保育園の概要

所在地：岸和田市岸城町18-11

保育園名：社会福祉法人 五風会 五風会保育園

執筆者名：理事長／園長 ^{つちかね}土金 ^{しんじ}新治

沿革：当保育所は曾祖父故寺田利吉（第7代岸和田市長）が旧岸和田藩城主岡部邸跡地に10年の歳月をかけ造成した五風荘（市登録指定文化財）の一角に、昭和44年5月、定員60名の認可保育園を開設した。岸和田市にゆかりの深い、歴史ある保育園として現在に至る。



特色：お城に近く、豊かな自然に囲まれた恵まれた環境のもと毎日を過ごしている。太鼓の響きが子守唄といわれるきしわだっ子には独特の音感、リズム感が育つと言われている。おはようのうたに始まり、おかえりのうたで終わる。一日を通して子どもの歌声が響き渡り、保護者、地域の人々の元気の源となっている。ダンス、バイオリン、わらべうた、英語あそび、手話、俳句、乾布摩擦、陶芸、クッキング、ダンゴムシ…なんでも遊びにってしまう子ども達。五感で感じ、集団生活の遊びを通じて相手の立場になって考えることで、心地よく過ごせることを、関わる全ての人と一緒に自然に楽しめるよう心掛けたいと思っている。

4. 保育園の子育て支援

4-1 園庭解放を毎日実施

開園当初の昭和50年代は、日曜、祝日も含め年間を通じてフェンスを閉めることがなく、保育園園庭は地域の公園のようなものであった。身近な公園がどんどん閉鎖されていく中、利用者から「砂場がきれい」「子どもが安心して遊べる遊具がいっぱいある」という声を聞くと、子育て世代が安心して集える場所として、保育園が期待される役割は大きいと思う。在園児の活動とのバランスを考えると大変だという声を耳にするが、園の活動、園児・職員の様子を自然に見てもらえるチャンスでもある。当園では毎日午前中と午後16時以降、一般へと開放を変更した（但し、休園日には開放はしていない）。

事前の登録や予約は必要なく、特にプログラム等もないが、保育園が開いている時はいつでも都合の良い時にきて、園内の遊具を使って自由に遊ぶことができる。希望者には園見学、園児とのふれあい体験も可能である。

基本的には、HP、園案内誌には園庭解放実施も記載はしているが、募集はしていない。園

フェンスに掲示してある看板と利用者のクチコミにて自然に広がっていく方針を取っている。しかし近隣地域に対して、保育園の活動をいかに認知してもらうかは法人内でも課題であったため、市内法人保育園協議会の働きかけにより、岸和田市発行による広報誌「広報きしわだ」(年2回発行)、岸和田市子育て支援協議会発行の「みんなで子育て」(年2回発行)に園庭開放、親子教室等地域活動について定期的な掲載することとなり、利用者への周知が進んだ。現在では他市から広域の参加がある。また市保健センター、市保健所での乳幼児健診時に案内をしてもらっている。

4-2 ボランティアセンターとの連携

当園ではボランティア体験プログラムとして、年間を通じて小学生から社会人までを1日5名まで受け入れている。人の役に立つ、頼りにされているという喜びが、参加後の主体的な活動につながっていけばと願っている。また、センター主催のボランティアサロンやボランティア養成講座へスマイルサポーターが参加し、受入施設の立場から事例発表するなど、市社協・老人・障がい等他福祉施設間との連携を図っている。また利用者からの失業に関する相談、就労支援についても関係機関と連携を取っている。

夏の夕涼み会では、毎年30名程の地域ボランティアと5歳児・職員が協働で模擬店の設営・運営を行っているので、園の保護者もお子さんと浴衣姿でゆっくりと楽しむことができ、利用者より喜ばれている。



4-3 専属の臨床心理士によるスーパーバイズ

平成16年より保育の質の向上を図るため、法人独自で契約した臨床心理士に月1回巡回指導に来てもらっている。通常各市においては、市発達相談員が対象児の在籍する園からの要望により巡回指導に行くケースが多いが、現在岸和田市では、保健センター在籍の5名の発達相談員(臨床心理士)で34園を担当している。多い園で年2回(半日)の巡回が現状であるが、当

園では月1回継続的に同じ先生に来てもらっている。心理士が園児だけでなく保育者とも、お互いの理解と振り返りができるので、子ども達のより良い成長、保育者の自信に繋がっている。心理士の業務内容としては、主に集団場面で対応困難な場合の相談、医療分野等専門的な視点から適切な支援に関する事、園でできる個別対応の事、保護者への伝え方、記録の取り方、行政への引継ぎ等の助言、指導等である。また保護者の希望があれば、個別相談にも応じてもらったり、園内研修の実施を行っている。スマイルサポーターは、主に在宅児童についての対応事例につき、専門的な立場からの意見を頂戴し、相談業務に活かすよう心掛けている。

5. スマイルサポーターの主な活動

5-1 関係機関との定期的な情報交換

定期報告対象児童の有無に関わらず、市家庭児童相談員（岸和田市において要保護児童対策協議会事務局）、市保健センター発達相談員、保健師と月1回情報交換を行っている。内容としては、医療・保健の相談に専門的な立場からのアドバイスを頂いたり、園庭解放で相談を受けた利用者の事例報告や対応困難な事例に対して調査依頼をお願いしたり、適切な連携機関を行政より紹介してもらったりしている。

5-2 親子教室の計画・実施

毎年4月に市子育て支援広報誌や園庭解放に訪れた利用者へ、親子教室の年間スケジュールを案内している。予約不要な園庭解放と違い、年間を通じて参加者同士が親しくなるよう、また初参加者が入ってきやすいよう、当日でも臨機応変にできるプログラムにしている。

5-3 町内会への参画

スマイルサポーターが所在地の町内定例会に月1回参画している。主に園及びスマイルサポーターの活動紹介と近隣子育て家庭や独居老人のイベントへの呼びかけ、子ども会・婦人会との連絡などを行っている。

5-4 スマイルサポーターが対応した主な事例

- 市内肢体不自由児施設の理学療法士より、通園する児童のリハビリの一環として集団生活を経験できるところを探しているとの相談を受け、保護者、施設、スマイルサポーターの3者で話し合い、当園の一時保育の利用につなげた。
- 障がい者デイサービスセンターよりボランティアセンターに問い合わせがあった。デイサービスにて就労支援を受けている知的障がいを持つ利用者より、子どもと関わる仕事を希望しているので、ボランティア体験を受け入れるところを探しているとの相談であった。初めて

の就労体験とのことだったため、比較的利用園児の少ない土曜日での保育体験を提案、月2回半日のボランティア体験を受けた。

- 外国籍の母子家庭の入園。市文化国際課、文化事業協会、国際交流協会へ通訳ボランティアの紹介依頼をするも見つからず。某関係者より、近隣乳製品販売員の外国籍の方をご紹介頂き、週一回ボランティアで園に来てもらうことになった。
- 他府県からDV理由にて転居してきた外国籍の母子が、園庭開放に来園。言葉の習得をしながら就労を希望しているが、各申請手続きにおける書類の書き方、また、その手続きの場所が分からない、就労していないので子どもを預ける場所がないとの相談を受けた。担当市ケースワーカーに連絡を取りながら、生活保護申請、無料弁護士相談、保育所入所申込、児童手当申請などをする際に、日本語サロン講師の指導を受け、サポーターが書類作成の手伝いと市役所へ同行した。
- 在園児の母、心療内科に通院しながら就労しているが、長続きせず、1か月程度での離職が続く。サポーターよりボランティアセンターへ相談、週2、3回の午前中短時間での介護ボランティアを紹介してもらう。
- 在園児の母が、子どもの養育を放棄し家出。養育者のサポートとして、サポーターが保育園送迎の支援を行った。また保健センターの保健師、家庭児童相談員、主任児童委員、小学校指導主事に家庭訪問、日曜祝日の定期訪問を依頼し、機関が互いに情報交換するよう支援体制を構築した。
- 離婚調停中の在園児の母親より、DV、虐待理由にて離婚を希望しているが、養育権の話がついておらず子どもに会うことができない状態なので、保育中に面会を要求してくる可能性がある。父親に会わせないにはどうしたらいいか、との相談を受けた。園内のケース会議にて緊急性があると判断されたため、ネットワークを通じて市無料弁護士相談を紹介。弁護士より保育園在籍中は母親以外には園児を渡さないとする旨が文書化され、園児の安全確保を図った。

6. 今後の課題

子育て支援は、当事者である保護者と保育園の関係がベースにある。場所提供型の園庭開放や親子教室など身近なところで一緒に活動を無理なくはじめ、徐々に公民館の親子サークル支援、NPOやボランティア団体企画のイベントに保育者が参加したり、園からのアウトリーチ的な活動につなげていき、保護者の活動を他の地域社会資源へとつなぐことが、今後より保育園に求められるだろう。

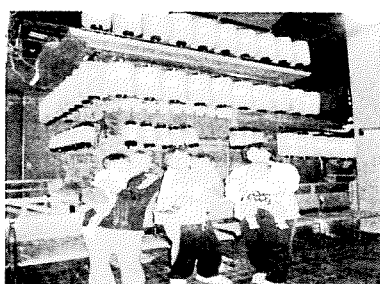
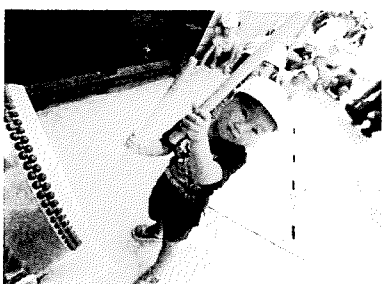
また、利用者がどこに相談に行ったらいいのかわかりやすいこともさらに大事であろう。地域福祉のコーディネーターとして、市町村コミュニティワーカー（以下、コミュニティーワー

カーをCSWという)、大阪府社協社会貢献支援員、老人・障がい施設CSWなど類似の役割のもつ制度が複数に配置されているので、互いの情報交換を密にし効果的な連携をするためにも、窓口や役割を明確に分かりやすくすることが必要だと思う。それにより、地域へもさらに広まっていくだろう。

平成24年8月に「子ども・子育て関連3法」が成立した。各市町村には「子ども・子育て会議」の設置が求められているが、この場において、スマイルサポーターの活動を積極的に紹介したいと思っている。制度的な位置づけを図ることができれば、ネットワーク作りなど所属職種を超えた連携が取りやすくなるだろう。その場合、「子ども・子育て支援法」に基づく実施要領の策定と業務内容、身分等を明記するよう働き掛けることも重要だと思っている。

保護者と地域を側面からつないでいく活動は、子どもが豊かに育つ土壌となるだけでなく、関わる人全ての成長につながり、同時に地域の中に子どもと保護者を温かく見守るまなざしを育んでいく。

関係する人たちのお互いの理解が深まっていけば、地域での保育園の存在意義、信頼が高まり、住みやすいまちづくりに貢献できると思っている。



2 宮崎県日向市

～体験活動を通じた子育て支援に学ぶ一人の食事からのとりわけ離乳食作り～

高橋丁子

1. 離乳食作りを始めたきっかけ

離乳食クッキングを開始してから7年目を迎えた。この「とりわけ離乳食クッキング」は、1組の親子との出会いがきっかけで始まった。平成19年1月早朝、支援センターの電話に「保育園を見学したい」との内容だったので、子どもさんの年齢を問うと「子どもはいません」という返事。「それでは、保育士さんの就労で見学に来られたいのですか」との問いにも「いいえ」ということだった。声の調子が非常に深刻だったため、来園を伝えると、30分ほどで1歳前後の子どもを抱いた女性が来られ、声をかけてみると、先ほどの電話の方だった。子どもはいないと言っていたのでもう一度尋ねてみると、子どもを抱いた状態で「子どもは嫌いなんです。出来たからしょうがなく産んだが、どうしても好きになれない」という言葉だった。子どもの体型は全体的に細く、蒼白で月齢は1歳3カ月。何を尋ねても言葉少なだった母親が、少しずつ話を始めた。

会話の中で離乳食をうまくすすめることができず、現在1歳3カ月になるが、1日に小さなおにぎり2個程度口にするだけで他のものはほとんど食べないとのことだった。母親の口調も重く、表情にも笑顔はなく、この子を預けて働きたいという希望があった。

母親が帰った後、センター所長、職員で話し合いをし、とにかく早急な対応が必要という結論になり、まず子どもの食事支援から始めていくことになった。そこで、支援センターが併設されている保育園の赤ちゃんの部屋で親子での後期離乳食の取り組みの開始を伝えると、本当にさっきの母親なのだろうかと思うほど明るい声で、「明日から行きます」との返事が返ってきた。

それからほぼ毎日親子での通園となり、他の子どもが食べている姿を見ることで食べる意欲につながればと、クラスでの食事をする中で1番感じたのは母親の変化だった。子どもの食事が順調にいったわけではなかったが、子どもも少しずつお米以外のものも口にするようになった姿を見て、母親の表情は明るい笑顔が見られるようになり、様々な悩みや日常の出来事を伝えてくれるようになった。そんな中で、子どもとのかかわりや向き合い方も少しずつ穏やかなものになっていき、当初の子どもを抱いたまま「子どもが嫌い」という子どもを拒否した姿は見られなくなった。

この親子との出会いを通して一番に感じたことは、周りに話を聞いてくれる人、子育ての協力者がいない状況での母親が持つ個々の戸惑いや悩みを聞くことで、母親が子どもと笑顔で向き合えるのではないかということだった。離乳食作りについても、本とにらめっこしながら、苦痛に感じ一生懸命作っても子どもが食べてくれないと悩んでいる母親がまだまだいるのではないかと感じた。この状況の中で、今センターにできることは、母親達が不安を感じることなく、家族の食事から取り分け、子どもの月齢に合わせて作れる離乳食クッキングだった。

2. 立ち上げ時の諸問題（行政とのかかわり）

調理設備の整った公共施設・託児をする部屋が確保できる公民館、児童館の交渉を進めた。当初、週1回の月4回、初期・中期・後期・完了期の4期に分けて計画したが、市の公民館の規則で同じ団体では月に2回までしか使用ができず、初期と中期、後期と完了期の2期に分け、月2回の開催でスタートした。スタート時は、参加人数もさほど多くはなかったが、活動を進めていくうちに口コミや通信を見たということで参加希望者が増え、それは喜ばしいことだった。しかし、参加者が増えることで託児が困難になり、託児をするスタッフの人数の確保が難しく、家庭支援推進委員や市内のファミリーサポートセンターに会員登録されている方達の援助をいただき、現在は、随時参加人数に合わせて保育介助の依頼をしている。



クッキングの様子



託児の様子



3. 離乳食クッキングに取り組む中での利点

離乳食クッキングに取り組む中で心がけていることは、第1に「家族の食事から取り分けることで離乳食のみを作るという気持ちの負担感を軽くすること」、第2に「月齢の近い子どもがいる母親同士の仲間作り」、第3に「食育的観点として、旬の食材やうまみを引き出す出し

の使用、及び親子そろっての食事」です。

クッキング中の先生との会話の中で、「これはパパの酒のつまみ、これは保存食、これはお弁当の彩りになるよ」と、家族全員が喜んで食べてくれる食事作りにつなげている。

先生の離乳食クッキングに取り組む思いを預かってきたので、ここで原文のまま記載させていただきます。

下準備をしていると「おはようございます」と元気のいい声で始まる。何人かのママは「手伝うことは何か?」と助けられる。時間になると今日の献立のやり方を説明し、それに関するバアサンの蛇足を付け加えたりし、その日の人数に合わせグループを作って作業にかかる。作業している間に、初めての人に集まってもらい、離乳食のことについて説明する。いつも言うことは…

1、今日は来てくださってありがとう

1、色々心配していると思うけど人間みんな食事をして大人になりますから何も心配いりません

1、離乳食は、スプーン1本、茶碗1ヶ、そしてあなたの笑顔があれば後は特別なことは何も必要ありません

1、朝起きたら湯ざましと小さな鍋に昆布を入れて火にかけ沸騰寸前に止めて、昆布だしを作っておけばいい

1、ご夫婦が楽しそうに食事をしているところに仲間入りさせて食べたそうにしていたら「〇〇ちゃんも食べたいの」と、その時のみそ汁なりスープなりの上澄みを白湯に半分うすめて1さじ口に入れてやったらいい。そうして、だんだん、豆腐汁だったらそのうちの1片を出し汁にのぼしてやる。じゃが芋、さつま芋、かぼちゃ等々…少しずつ出し汁にのぼしてあげたらいい

1、ご飯を炊くときは、釜の真ん中に茶のみ茶碗を入れ、水の中に米粒を少し入れて炊けば、米粒の量によって重湯、おかゆ何でもできます

1、色々なその日使うつもりで家にある野菜をグタグタになるまで出し汁で煮たら、その上澄み、つぶす…とだんだん固まりで食べれるようにまでいけばいい

1、今日食べなかったら、明日は2さじ食べるかもしれないし、食べないかもしれないし…でも大丈夫、あなた達が食べれるようになって、こんなに大きくなっているもの

1、卵・牛乳を完全食品と昔は言って赤ちゃんに食べさせていましたが、今はアレルギーの出る子どもがいますので、牛乳は1歳過ぎ、卵は黄身のかた茹でを10ヶ月くらいで少し出し汁でのぼしてやったらいいと思う。新しい食物をあげた時は、便を注意してください

1、わが子を他の子どもと比べない

1、信じて待つ

1、お母さんの笑顔とやさしい声かけがあれば、絶対に良い子に育ちます

色々あることは自然の事。その時は、どうか1人で悩まないで周りの人に、またこの支援センターに来て言葉に出してください。1歩先、10歩先を歩いている先輩達が聞いて、5つも6つも参考になることを言ってくださいますよ。私でよかったらいつでもですし、先生・園長先生はどんなことでも大丈夫、解決していただけますから。決して1人で子育てではなく、みんなを巻き込んでくださいね。

個人的なことです。半世紀前、夫以外誰も知る人のいない日向に来て子育て・病気等々色々ありました。時間ができたら、若いママ達に私の持っているわずかなものでも分け与えて、一緒に笑えたらいいなとずうっと思っていました。今、この機会を与えてくれた支援センターには、本当に感謝感謝です。この6年間、一度として嫌なことがありませんでしたのも、感謝です。



離乳食クッキングの調理師と母親達の様子



4. 6年間の参加者の声

取り分け離乳食クッキングを体験して…

☆離乳食が始まったばかりなので、今後どのように進めていくのかわかってよかった。先生の話の中で、焦らず子どものペースで進めていけばよいといわれホッとした。

- ☆本ではなかなかわからなかったけど、実際作ってみて、このぐらいの時はこのぐらいの味・硬さというのが分かってよかった。
- ☆先生が間で話してくれる、本とかに載っていないようなちょっとした料理テクみたいなものが聞けるのでとても参考になります。
- ☆子どもの料理だけでなく、大人の料理も教えていただけるので、パパと子どもに美味しいものを作ってあげようという気持ちになりました。料理も離乳食も楽しく作るのが大事だとわかりました。
- ☆この教室は、離乳食のことだけではなく料理の基本を一緒に学べるので毎回楽しみです。
- ☆ここでは料理を教えていただくだけでなく、いろんなママ達や先生、子ども達とお話ができ、子育てについての悩みや不安も解消することができます。
- ☆ここに来るとみんなで食べるからか、家で食べるよりたくさん食べてくれるので、親子とも嬉しい気持ちになります。
- ☆自宅ではなかなか作らなかった献立が多く、家で作ると主人も喜んでくれます。
- ☆大人の料理から取り分けて作ったことがあまりなく参考になりました。子どもも、日頃他の子どもと接する機会が少ないので親子でいい刺激になりました。
- ☆いつもの献立はもちろん、お酒のつまみやお弁当の一品などとても助かります。
- ☆前回の手巻きずしを我が家でしました。旦那にも巻き巻きさせました。笑い笑いの食卓になりました。
- ☆離乳食教室は心をいやしてくれる場でした。
- ☆大人の食事がおいしかったのはもちろんですが、子どもの離乳食の作り方も“わざわざ”というのではなく、日常的に作れるような方法を教わり、「がんばるぞー」と意欲がわいてきました。
- ☆離乳食だけでなく、育児のことその他、いろいろなことを話せて1ヶ月1度の唯一のストレス発散の場所となりました。
- ☆今まで一人で試行錯誤しながらやってきましたが、今回参加させていただいて少し肩の力を抜くことができました。
- ☆いつも子どもと二人きりで、離れることもないので少しの時間離れてみて、気分転換にもなりました。
- ☆初めて子どもを預けるので緊張しましたが、安心して預けることができました。料理もみんなまで出来て楽しく、何よりも取り分けた離乳食を子どもがパクパク食べてくれたことに感動でした。
- ☆最近ゆっくりと食べたことのなかった食事を、ゆっくり食べれたのが嬉しかったです。
- ☆先生の口調や優しい顔を見ると、育児に少し力が入ってたかなと振り返ることができます。

先生に「大丈夫よ～」と言われると安心します。

☆子どもとちょっと離れて、先生や同じ月齢の子を持つママさん達と話をしながらゆっくりとご飯を食べることも、リフレッシュになりました。

☆ここでの交流で親しい友達もでき、子育てをするうえで大きなパワーをもらいました。

☆料理のこともいろいろ教えていただきましたが、何より先生と会えるのを毎月楽しみにしていました。先生はいつも明るくみんなのお母さんのようです。

今回は、ひと組の親子との出会いを通して開始した「離乳食クッキングの活動」について報告をさせていただいたが、これからの子育て支援を考えていくにあたって、最初に相談に訪れた母親にも、離乳食クッキングに参加している母親達にも、今家庭で子育てをしている母親達にも共通している想いというのは、「子育てのどんな小さなことでも、また子育ての中で、つらい時にはつらいといえる人にそばにいてほしい」ということではないだろうか。この離乳食クッキングの活動はもちろん、家庭で子育てをしている母親達が孤独感を感じることなく、笑顔で子どもと向き合うことができるよう、私は一人じゃないんだと確認できる場所や活動をもっともっと増やしていくことが支援センターの役割の一つではないかと考えている。



親子での食事の様子

子育て



支援センターのサークル、 クラブのご案内

☆ひまわりサークル

月1回の身体重測定や季節に合わせた行事を楽しみます。

☆国際交流サロン“英語で遊ぼう”

月1回、日向市の国際交流員による英語でのリズム遊びや簡単な言葉遊び。

☆支援センター家庭学級

日向市より助成金をいただき、毎月1回の活動を楽しみます。

☆絵本の読み聞かせ

日向保育園職員による絵本の読み聞かせ。

☆離乳食クッキング

第1・3水曜日に離乳食のクッキングをします。
(要予約・開催日1週間前まで)

☆もうすぐパパ・ママ応援団

妊娠中の方が保育室で、保育士と赤ちゃんがどう触れ合っているのかを見たり、実際に赤ちゃんに触れ合ったりしていただきます。

支援センターってどんなところ？

- Q いつ遊びにいけるの？
A 月曜～土曜の9:00～17:00のご都合のよい時間にいつでも遊びに来ていただけます。
- Q 予約はいりますか？
A 予約はいりません。予約が必要な活動は、毎月この通信でお知らせします。
- Q 利用料は？
A 国・県・市をあげての取り組みですので無料です。

活動日程変更のお知らせ

今月は、カレンダーの都合により日程がいつもと変更になっている活動があります。

☆離乳食クッキング

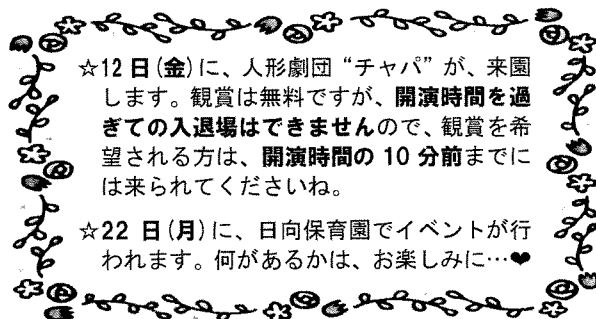
17日(第3水曜日) 初期・中期

24日(第4水曜日) 後期・完了期

☆英語で遊ぼう

18日(木曜日)

いつもと曜日や実施週が変更になっていますので、ご確認の上ご参加ください。



月	火	水	木	金	土
1 園庭で遊ぼう 10:30～11:30	2 大型ブロック遊び 10:30～11:30	3 絵合わせ パズル遊び 10:30～11:30	4 どろんこ遊び 10:30～11:30	5 ひらひらリボンで 風と遊ぼう 10:30～11:30	6 園庭遊び 10:00～11:30
8 トンネル・階段遊び 10:30～11:30	9 おんぶでお散歩 ぬいぐるみ遊び 10:30～11:30	10 砂場遊び 10:30～11:30	11 広告紙遊び 10:30～11:30	12 人形劇団 “チャバ” 観賞 10:00～11:00 日向保育園ホール	13 園庭遊び 10:00～11:30
15 読み聞かせ 11:00～11:30 パパ・ママ応援団 10:30～12:00	16 牛乳パックで バックを作ろう 10:30～11:30	17 離乳食作り 9:30～13:00 日知屋公民館	18 国際交流サロン “英語で遊ぼう” 11:00～11:30	19 誕生会 10:00～12:30 予約は一週間前まで にお願いします	20 園庭遊び 10:00～11:30
22 お楽しみに… 10:00～11:00	23 身体重測定 10:00～11:30	24 離乳食作り 9:30～13:00 日知屋公民館	25 布おもちゃ遊び 10:30～11:30	26 布おもちゃ遊び 10:30～11:30	27 園庭遊び 10:00～11:30
29 昭和の日 お休みします	30 こいのぼり作り 10:30～11:30	5/1 離乳食作り 9:30～13:00 日知屋公民館	5/2 かぶとを折ろう 10:30～11:30		



日向市の子育てを支援します



親子で楽しく遊ぼう

- ◆開所時間(園庭開放)
月曜日～土曜日 9:00～17:00
 - ◆体験保育
月曜日～土曜日 10:00～11:30
 - ◆各サークル・クラブで計画されたプログラム(ハイキング・親子クッキングなど)
- ※費用については、国・県・市をあげての取り組みで無料です。

サークル・クラブ

- ★母親サークルひまわりクラブ
毎週水曜日 10:00～11:30
- ★国際交流サロン“英語であそぼう”
毎月1回 11:00～11:30
- ★支援センター家庭学級クラブ
毎月1回 10:00～11:30
- ★絵本の読み聞かせクラブ
毎月1回 11:00～11:30
- ★離乳食クッキングクラブ
第1水曜日(初期・中期) 9:30～13:00
第3水曜日(後期・完了期) 9:30～13:00
- ★もうすぐパパママ応援団
第1・3月曜日 10:30～12:00

24時間テレフォンサービス

☎53-5857

期間	今月のテーマ
4月1日(月) ～ 4月7日(日)	「5歳児は幼児期の完成期」 (1) やることがしっかりしてくる (2) 家族以外の人と付き合いを持つ (3) 大人らしくなるがまだ子ども
4月8日(月) ～ 4月14日(日)	「現代っ子と食の役割」 (1) 食べ物は体の糧 (2) 食べ物は心の糧 (3) 食べ物は文化を伝える
4月15日(月) ～ 4月21日(日)	「我慢する心」の育て方 (1) 我慢する心は1～2歳までに育てる (2) 我慢する心をどのように育てるか (3) わがままな要求に負けない態度を
4月22日(月) ～ 4月29日(月)	「絵本好きな子どもにするには」 (1) 絵本と子ども (2) 絵本の選び方 (3) 絵本選びのポイント
4月30日(火) ～ 5月6日(月)	「子どもと遊びについて考える」 (1) 子どもの成長に大切な遊び (2) 年齢と遊びの種類 (3) 悪い遊び

★子育てのヒントが電話で聞けますよ

育児相談

相談方法は？

TEL 53-5766 FAX 53-5088

- ★ 電話による相談 月曜日～土曜日
 - ★ 来園による相談 9:00～17:00
 - ★ 訪問による相談 依頼時随時
 - ★ 言語相談(言語聴覚士による)
月曜日～金曜日 9:00～17:00
- ※相談についての秘密は厳守されます。

一時預かり

お父さん、お母さんが病気、その他私的な理由(お母さんのリフレッシュ)など、一時的に家庭での保育が困難となる場合にお子さんをお預かりします。

- ◆《利用時間》 8:30～17:00までの時間帯で
4時間～8時間の必要な時間
- ◆《費用》 4時間まで・・・750円
8時間まで・・・1500円
- ◆《申し込み》
食事等の準備のため、前日までに電話にて予約をしていただきます。緊急時については別途ご相談に応じます。

体験保育

保育園や幼稚園での集団遊びを体験しましょう

- ★ 園庭で親子であそぼう
- ★ シャボン玉遊び
- ★ 夏には水遊び♪大きいプールもありますよ♪
- ★ 手作りおもちゃづくり ★行事を楽しむ制作
- ★ 手遊び/リズム遊び・手話 ★楽器遊び
- ★ 絵本の読み聞かせ ★身体測定・・・など

ボランティア体験

- ◆ 日向市ふれあいフェスタにボランティアとして参加
- ◆ 日赤ボランティアについて聞いてみよう
- ◆ 日向市福祉のつどいの参加
- ◆ 短時間保育士体験 ◆ 救急法講習会



一人で考えている時間に子どもは、刻々と成長します。お子様と一緒に、遊びにいらしてみたいはいかがですか。



どんな小さな事でもお気軽に、声をかけてくださいね。





☆ 大人のメニューからの離乳食 ☆

日向・地域子育て支援センター

* いも餅汁

〈材料〉(下ごしらえ) 2人前

じゃがいも 2ヶ(約 200g)…皮をむき茹で、熱いうちにつぶす
 片栗粉 大さじ3 / 長ネギ 1/2本(斜め切り) / 鶏もも肉 1/2枚(そぎ切り)
 のり 1枚(あぶってもむ) / 酒 小さじ2 / しょうゆ 大さじ1 / 水 2C

〈作り方〉

- ① つぶしたじゃが芋に片栗粉を加えよく混ぜ、一口大に丸める。
- ② 鍋に油を温めネギを入れ、焼き色をつけしょうゆをジュッと加え、水を入れ鶏肉を入れる。
- ③ 沸騰したら、いも餅を加え、しょうゆ・塩少々で味をととのえる。
- ④ 器に盛り、もみのりを散らす。

* れんこんサラダ

〈材料〉(下ごしらえ) 4人前

れんこん 250g(5mm厚さに切り水にさらす〈10分くらい〉)
 ベーコン 50g(3mmの細切り) / 春菊 1/2ワ(根元を切り落とし4cm長さに切る)
 長ネギ(白い部分) 1本分(白髪ネギにする)
 オリーブオイル 大さじ2 / レモン汁・黒こしょう 少々

〈作り方〉

- ① 温めたフライパンにオリーブオイルをひき、水気を切ったレンコンを入れ中火で炒め、火が通ったらベーコンを入れさらに炒める。
- ② 器に春菊に白髪ねぎを混ぜ熱い①を入れ混ぜ合わせ、レモン汁・黒こしょうをふる。

* カリフラワーの唐揚げ

〈材料〉(下ごしらえ) 4人分

カリフラワー 1株(小房に分ける) / 小麦粉・パプリカパウダー 各大さじ1
 ブルーチーズソース
 (ブルーチーズ 50g / 牛乳 大さじ3 / レモン汁 小さじ1 / 塩・こしょう)

〈作り方〉

- ① カリフラワー・小麦粉・パプリカパウダーをビニール袋に入れまんべんなく粉をつける。
- ② ブルーチーズをつぶし、ソースの材料を練る。
- ③ カリフラワーを170℃の揚げ油でこんがり揚げる。

* 焼きりんご

〈材料〉(下ごしらえ)

りんご 1玉(皮をむいて8等分に切る) / バター 大さじ2
 A(生クリーム 大さじ3 / 砂糖 大さじ1)

〈作り方〉

- ① フライパンにバターを入れてりんごを焼き、表面に焦げ目がついたら A を加え中火で煮詰める。



「さゆ」

- ・ おもゆ
- ・ 昆布だしに、じゃが芋・カリフラワーを煮、上澄みをあげる。
- ・ りんごをすり汁をあげる。初めての場合は、「さゆ」で薄める。

「中」

- ・ おかゆ
- ・ 昆布だしにじゃが芋・カリフラワーを煮、つぶしてあげる。
- ・ りんごのすりおろし



☆ 大人のメニューからの離乳食 ☆

日向・地域子育て支援センター

* きのご飯

〈材料〉(下ごしらえ) 5人分

舞茸 100g (ちぎってばらす) / しいたけ 5枚 (石づきを取って5mm幅に切る)
 しめじ 100g (石づきを取って長さをそろえて切る) / 人参 50g (拍子切り)
 ごぼう 50g (小ぶりのささがきにして水に放す)
 うす揚 2枚 (油抜きして、縦半分にして5mmに切る) / 米 3C (洗って水にひたす)
 A (砂糖 小さじ4 / 酒 大さじ3 / しょうゆ 大さじ3 / 塩 小さじ2/3 / だし汁 3.6C)

〈作り方〉

米はざるにあげ、Aを入れた鍋で炊く。ふいてきたらすべての材料を入れて、炊き上げる。

* 柿の白和え

〈材料〉

柿 100g (半分) …3~4cm長さ、1cmの拍子切り
 木綿豆腐 300g (1丁) …6~8つに切り、たっぷりの熱湯でゆで水気を絞る
 きゅうり 1本…薄切り、塩をふる
 こんにゃく 1/2枚…塩でもみ熱湯でゆで、3~4cm長さ、1cm幅の拍子切り
 A (だし 1/2C / 砂糖 大さじ1 / 酒 大さじ1 / 薄口しょうゆ 大さじ1/2)
 B (砂糖 大さじ1 1/2 / 練りごま 大さじ2 / 塩 小さじ1/4)

〈作り方〉

- ① 鍋にAとこんにゃくを入れて汁気がなくなるまで煮る。
- ② 豆腐をざるでこし、Bを加えてよく混ぜ①と柿、きゅうりを加える。

* さつまいの甘煮

〈材料〉

さつまい 500g (2cmの輪切り)
 A (砂糖・みりん 各大さじ5 / しょうゆ 小さじ1 / 塩 小さじ1 / 出し汁 1と1/4 / レモン薄切り 2枚)

〈作り方〉

- ① さつまいを水に放し、その水を2~3回とりかえる。
- ② Aを鍋に入れ煮だつまで強火、煮立ったら中火にして煮含める。

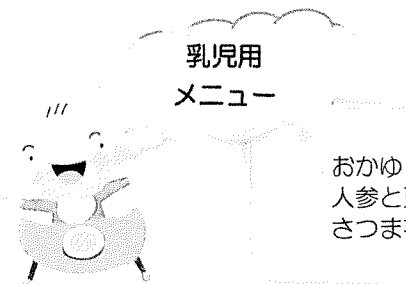
* 手羽先のママレード煮

〈材料〉

手羽先 800g~1kg / ママレード 200g / しょうゆ 100cc / 酢 50cc

〈作り方〉

- ① 手羽先を熱湯にくぐらせ、きれいに水洗いする。
- ② 鍋に調味料と手羽先を入れ火にかける。



乳児用
メニュー

おかゆ
人参と豆腐をよく煮る
さつまいは出し汁にのばす

了
きのごはんはよし
柿の白和えはこんにゃくを除く
さつまいの甘煮はよし

地域子育て支援センター利用人数・離乳食クッキング参加者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
19年度	来所	子ども	476	538	657	510	395	456	521	391	341	371	502	417	5575
		保護者	402	472	575	445	343	416	451	333	304	321	409	337	4808
		合計	878	1010	1232	955	738	872	972	724	645	692	911	754	10383
	初・	子ども		5	8	5	4	6	9	12	6	6	11	11	83
		保護者		5	8	5	4	6	9	12	6	6	10	10	81
		合計		10	16	10	8	12	18	24	12	12	21	21	164
	後・	子ども	5	5	9	2	4	9	7	6	7	9	10	13	86
		保護者	4	5	9	2	4	8	7	6	6	9	10	13	83
		合計	9	10	18	4	8	17	14	12	13	18	20	26	169
20年度	来所	子ども	605	565	772	673	510	612	637	614	486	374	496	470	6814
		保護者	483	482	646	553	404	493	517	514	400	311	408	386	5597
		合計	1088	1047	1418	1226	914	1105	1154	1128	886	685	904	856	12411
	初・	子ども	13	11	19	23	17	16	中止 台風	10	10	9	4	4	136
		保護者	12	10	18	22	17	16		8	10	8	4	4	129
		合計	25	21	37	45	34	32		18	20	17	8	8	265
	後・	子ども	13	11	15	9	10	16	20	21	11	13	16	13	168
		保護者	12	10	14	9	10	15	19	19	11	12	14	13	158
		合計	25	21	29	18	20	31	39	40	22	25	30	26	326
21年度	来所	子ども	624	522	629	721	322	543	441	282	281	315	448	477	5605
		保護者	494	432	546	575	243	450	374	237	238	266	359	383	4597
		合計	1118	954	1175	1296	565	993	815	519	519	581	807	860	10202
	初・	子ども	5	11	8	7	1	5	5	3	4	8	10	13	80
		保護者	5	11	8	7	1	5	5	3	4	8	10	13	80
		合計	10	22	16	14	2	10	10	6	8	16	20	26	160
	後・	子ども	11	11	15	10	13	12	12	11	8	13	13	13	142
		保護者	11	11	15	10	13	12	12	11	8	13	13	13	142
		合計	22	22	30	20	26	24	24	22	16	26	26	26	284
22年度	来所	子ども	520	516	616	776	580	849	705	593	579	481	505	649	7369
		保護者	398	416	491	598	427	646	549	470	438	406	410	516	5765
		合計	918	932	1107	1374	1007	1495	1254	1063	1017	887	915	1165	13134
	初・	子ども	13	7	6	7	7	5	9	7	6	7	5	5	84
		保護者	13	7	6	7	7	5	9	7	6	7	5	5	84
		合計	26	14	12	14	14	10	18	14	12	14	10	10	168
	後・	子ども	11	14	中止 口蹄疫	15	9	12	15	7	8	7	7	6	111
		保護者	11	14		15	9	12	15	7	8	7	7	6	111
		合計	22	28		30	18	24	30	14	16	14	14	12	222
23年度	来所	子ども	595	611	719	685	686	705	603	565	512	464	502	600	7247
		保護者	456	500	596	554	531	577	477	452	404	366	389	432	5734
		合計	1051	1111	1315	1239	1217	1282	1080	1017	916	830	891	1032	12981
	初・	子ども	5	3	6	11	11	16	11	9	10	7	3	6	98
		保護者	5	3	6	11	11	16	11	9	10	7	3	6	98
		合計	10	6	12	22	22	32	22	18	20	14	6	12	196
	後・	子ども	8	9	7	10	12	7	14	16	12	14	15	11	135
		保護者	8	9	7	10	12	7	14	16	12	14	15	10	134
		合計	16	18	14	20	24	14	28	32	24	28	30	21	269
24年度	来所	子ども	478	483	560	647	397	601	534	416	295	238	384	507	5540
		保護者	365	413	456	497	287	492	430	343	242	202	318	405	4450
		合計	843	896	1016	1144	684	1093	964	759	537	440	702	912	9990
	初・	子ども	6	6	10	10	7	9	10	8	7	6	12	10	101
		保護者	6	6	10	10	7	9	10	8	7	6	12	10	101
		合計	12	12	20	20	14	18	20	16	14	12	24	20	202
	後・	子ども	10	9	9	13	7	9	7	8	8	9	11	12	112
		保護者	9	8	8	13	7	9	7	8	8	9	11	12	109
		合計	19	17	17	26	14	18	14	16	16	18	22	24	221
25年度	来所	子ども	443	515	526	657	594	603	554	490	506				4888
		保護者	372	449	433	525	464	505	450	395	385				3978
		合計	815	964	959	1182	1058	1108	1004	885	891				8866
	初・	子ども	12	14	11	13	13	12	8	8	12				103
		保護者	12	14	11	13	13	12	8	8	12				103
		合計	24	28	22	26	26	24	16	16	24				206
	後・	子ども	5	7	11	10	5	9	15	12	9				83
		保護者	5	7	11	10	5	9	15	12	9				83
		合計	10	14	22	20	10	18	30	24	18				166

3 大分県中津市

～医療機関が開設している 中津市子育て支援センター「木もれび」

いのうえなり お
井上登生



1. 施設名

医療法人 井上小児科医院
中津市地域子育て支援センター「木もれび」

2. 施設責任者

医療法人 井上小児科医院理事長 井上登生
中津市地域子育て支援センター「木もれび」所長 井上路子

3. 住所

大分県中津市上宮永友の町13番地の4

平成11年（1999）から行われた、いわゆる平成の大合併以前の中津市は、大分県内では大分市、別府市に次いで人口が3番目に多い都市である。2014年NHKの大河ドラマ軍師官兵衛こと黒田官兵衛が初代城主である中津城を中心とした城下町で、青の洞門、羅漢寺、福澤諭吉旧居、などの文化財や歴史的建造物、市域南部には景勝地の耶馬溪がある観光都市である。

平成16年（2004）末に、ダイハツ車体株式会社が中津市昭和新田に本社、工場を移転したため自動車関連工場の集積が進んでいる。

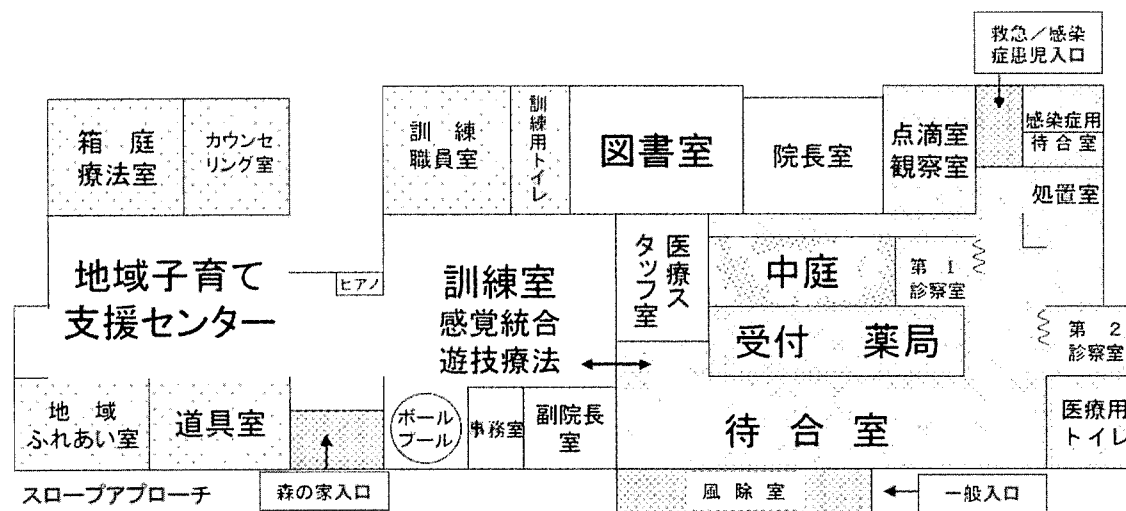
平成25年10月の中津市では、全人口85,612人と5年前と比べると人口は500人ほど減っているが、就学前の児童数は5,658人と増えている。外国人も22か国、597人いる。また、平成24年度の出生数は835人で、出生率が県平均の8.5に対して9.8となっており、合計特殊出生率も県平均1.56に対して1.80と高くなっている。保育所の入所状況も過去4年間で160人の定員増を

行ってきたが、5月現在平均100%を超える入所率となっている。また、平日に親子が集う拠点事業所や児童館の利用者も年々増加している状況である。

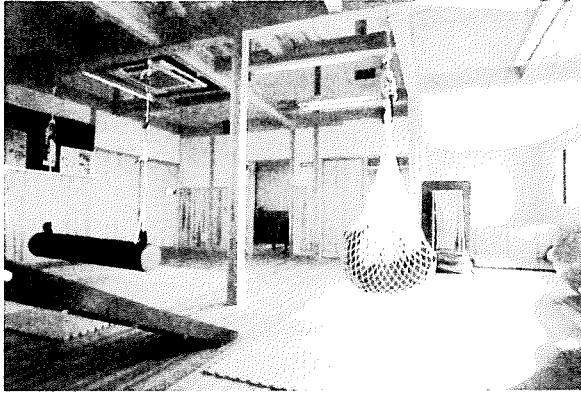
《施設概要》

医療法人井上小児科医院の診療業務は大きく一般診療部とリハビリテーション部に分け、リハビリテーション部の中に中津子ども発達行動相談室（通称：森の家）がある。図は、当院の見取り図を示す。医院全体の総面積は471.00平方メートルで、そのうち発達行動相談室専用の面積は224.74平方メートルである。建物のコンセプトは児童館のイメージとした。周囲の既存の家並みにも配慮し、木造平屋建てとした。憩いの家を心がけている。入口は3段ほどの階段のある一般入口と、車椅子でも入れるスロープのある入口の2つとした。中津子ども発達行動相談室は同じ建物の南側にあり、診療部と両翼の形で位置する。広めの訓練室に、カウンセリング室と個別訓練室、箱庭療法室、ならびに地域ふれあい室がある。ドアはほとんど引き戸となっている。

図：医療法人井上小児科医院見取り図



平成10年10月から当院で継続していた中津市の子どもデイサービス事業は、地域における発達障がい児の療育システムの変更にともない、平成25年3月で終了し、代わって4月より障がい児の居場所づくり事業を開始した。それにともない、子育て支援拠点事業の内容がさらに増えてきた。



4. 本事業に取り組むようになった動機

当院理事長は、昭和58年（1983）福岡大学医学部小児科に入局以来、自分自身の臨床の場を大学病院内での発達行動小児科専門外来、市中病院の外来、療育施設の一部としての外来と変化させてきた。平成5年（1993）より大分県中津市にある昭和9年（1934）開設の小児科単科標榜診療所3代目の医者として家業を継承した。この中で5年たったので、ちょうど厚生省の心身障害児デイサービス事業と一緒にして、自分なりに考える心と身体を統合した小児医療を目指す診療所（本書119ページ、写真左）を平成10年（1998）10月に開設した。

中津市では、平成9年（1997）4月から中津市の民間認可保育園である如水保育園に、地域子育て支援事業が設置された。当院理事長も当初より講演活動や研究会、相談事業などでかかわってきた。その中で本事業は非常に有意義な活動であると感じるとともに、相談内容によっては小児科医が共に話を聞き、支援するの必要を感じていた。これらの経験より、当センターは中津市における2つ目の地域子育て支援センターとして、平成15年（2003）4月より医療法人井上小児科医院に併設された。この事業は全国的に見ても幼稚園や保育園などの施設が開設しているところが多く、医療機関が開設しているところは稀である。従って、当センターは他にはない、特色のある施設として、子ども達や家族、地域の要望に応えられる施設を目指している。

5. 本事業の活動について

《目的》

- ① 当センターを中心に、子育てにかかわる諸機関と連携し、養育者の子育て支援の場を拡大する。
- ② 子育て家庭等に対する相談指導、地域の母子保健活動および特別保育事業への支援を実施することにより、地域の子育て家庭に対する育児支援を行う（詳細は下記事業内容を参照のこと）。

《事業内容》

1. 子育て相談：“子育てランド”や電話、面談において、保育士・医師などによる相談指導を行う。
 - ① 子育てランド：子育てで悩んでいる人やお友達がほしい人・中津市へ転居してきた子育て中の人などが集まり、先輩お母さんの話を聞き、情報交換をし、お友達をつくり、また、ミニ講演会を聞く会を開催している。
 - ② クラブ童神（わらびがみ）：子どもとおかあさんの遊び場を提供することを目的としている。基本的に、親子で自主的に遊ぶ時間を大切にして頂きたいと考え開催している。
2. 胎生期・乳幼児期を通じた子育て支援
 - ① 低出生体重児を有する家庭支援、特に0～3歳児の育児相談指導および家庭教育講座などを行う。
 - ② 胎生期・乳幼児期を通じた音楽教室“うたい聞かせの会”：妊婦および乳幼児を有する養育者に対し、童謡を中心として専門家による指導を行う。
 - ③ ベビーマッサージ：RTA認定ベビーマッサージセラピストによる、乳児を対象とした母子相互関係の確立を主眼としたセラピー講座を行う。
3. 外国人国籍を持つ養育者への支援：外国人国籍を持つ養育者に対して、わが国における母子保健制度（乳幼児健診、予防接種など）、および就学問題に関わる相談指導を行う。必要に応じ、ロンドン大学で臨床経験のある理事長による夫婦間療法・家族療法も行う。
4. 障害児の兄弟と家族に対する支援：特に児童デイサービスを利用する子どもの兄弟と家族への対応を行う。
5. 児童養護問題に対する相談指導：不適切な養育（マルトリートメント）に陥る可能性のある家族および中津市内の児童養護施設の入所児（就学前児童を中心に）への相談指導を行う。
6. 子育て支援に関わる講演会・ワークショップの開催
 - ① 地域住民や子育てに関わる関係者を中心に開催する。
 - ② 中津市母子保健事業・養育支援家庭訪問事業研究会（3か月に1回、市町村保健師・保健所保健師が対象）、中津小児発達研究会（2か月1回、保育士・放課後児童クラブ指導員・市町村地域医療対策課および子育て支援課職員などが対象）、中津スペシャルケア研究会（原則毎月、要保護児童対策にかかわる諸機関が対象）、特別支援教育事例検討会（原則毎月、学校教諭・教師、市町村教育委員会担当が対象）を当院理事長がスーパーバイザーとして開催している。
7. 子育て支援情報提供：毎月情報誌の発行を行い、積極的に情報を発信するとともに、情報交換の場を提供する。

8. 子育て支援に関わる諸機関との連携

- ① 保育所などに出向いて子育て相談を行う。
- ② 子育て支援課を中心に中津市内の子育てにかかわる諸機関との情報交換の場を提供する。

《具体的な事例》

下記の事例は、主として当院理事長が直接関与した事例を示し、個人が特定できないように、あらかじめ年齢・性別・内容など趣旨がずれないように変更している。

① Aちゃん：母親自身の被虐待体験がベースにある子育て不安のケース

このような母親の場合、いきなり虐待予備軍（ハイリスク群）として、特別な時間をもうけて対応すると帰って、フラッシュバックなどを中心とした問題行動が悪化する恐れがあるので、基本的に一般小児科外来で、通常に対応をしながら、母親の状態に応じて話を深めていく対応が必要となる。

母親の訴える子どもの症状（湿疹、摂食行動、睡眠、かんしゃく、ぐずりなど）への対応の仕方を母親なりにできる対応を伝え、出来たときにほめていくやり方で対応した。

同時に、診察はしなくても、気になるときは電話相談として受け付け、対応する看護師を専任としてもうけ、井上と専任看護師のみで対応することで、ちょっとした説明のニュアンス違いで不安を増大させる母親に対応した。

母親の不安が大きいときは、一日に何度も電話がかかることもあるが、これらは保険診療では対応できず、すべて無償でおこなっているので、子育て支援事業での対応としてカウントした。

② Bちゃん：5歳女児。知的障害のある母親。高齢出産。子どもはひとり。近所の小学生複数から、「きもい」「バカ」「きたねえ」「うざい」などと母親がからかわれ、石を投げられたりして、パニックになった。近所の人（当院の患児の母）が見かねて介入、相談に乗ろうとしたが、「どうしたものだろうか？」という相談があった。双方、当院で子どもが乳児期より診ている家族であったので、理事長が介入し、対応を決定した。近所の人には、「必ず理事長に相談するように伝えてもらい」、連絡があれば専任看護師が対応、理事長が必ず診るようにした。

③ Cくん：現在、生後9か月。母親、強迫性症状、過剰不安を中心とした神経症。中津市地域医療対策課保健師とも連動して支援中。この母親の場合、より一般の環境の中で、ケアを続けた方が良いので、あえて子育て支援課とせず、一般乳児健診や保健師訪問、当院外来などでケアを続けている。この母親の対応も理事長と専任看護師で対応している。

④ Dくん：7歳男児。母親が第3子出産直前で死産。もともと不安の強い男の子。出産前も、

健忘のような症状で相談を受けていた。今回のエピソードの後も、パニックになり、当院受診の形をとろうとすると「病院にかかるほど悪いのか?」という事を心配するとのことで、本児も乳児期から診ていたので、理事長も状況がよく理解できるため子育て支援での対応とした。

- ⑤ Eさん：6歳女児。関西近辺在住。母親と生活できない（おそらく虐待、もしくは服役?）ため、中津市の母親の兄姉がケアをしている。事情も全く言わず、困ったとき、祖母や母親の妹が連れてくるが、症状はわからないと言う。住居地が特別な地域でもあるので、行政からの一気の介入はかえってマイナスで、一番の目標を、「困ったときに連れてくる場所としての当院の確立」として対応した。本家族も専任看護師を決め、対応に一貫性を持たせるようにした。周囲からの情報を収集中。
- ⑥ Fくん：1歳4か月男児。母親のポリシー（ある団体で研修している）で、子どもに予防接種も投薬も基本的にさせない。医療ネグレクトの重症型にならないように、母親の主張も受け入れながら徐々にケアを続けている。現在、理事長の指示がある時は、必要最低限の内服は行うようになっている。このような家族は地域での孤立が進むことが多く、そこから母親が意固地になってくると、児童相談所の介入が必要になることもあるので、他機関を通して連携を進めながら、社会的孤立を極力抑える検討をしている。
- ⑦ Gくん・Hくん：2歳11か月。中津市の超低出生体重児の双子。出生時より大分市の病院にてフォロー中。大分市の病院での経過観察が中心で、中津市管轄の保健所でのフォローも1歳前で終了。その後、中津市の乳幼児健診、その他のフォローは一切無く、中津市内の内科受診時、当院に相談することを勧められ来院された。中津市の子育て支援システムの紹介、病診連携による中津市民病院小児科の利用の仕方の説明、その他の子育て支援情報の提供を行った。担当看護師および保育士を決め、心配があったとき、直接その看護師あるいは保育士に連絡をとれば、まず相談の窓口になることを確認した。2回の相談後、森の家および地域の療育施設での療育を開始することになった。
- ⑧ Iくん：6歳1か月男児。以前当院を受診していたが、現在かかりつけは他院。就学を直前に控え、中津市の特別支援教育の判定受診に消極的なため相談にのった。状態としては高機能広汎性発達障害が一番考えやすいが、母親の障害受容が全くできていなく、「このまま普通学級で生活したい」と強く希望した。母親のみのひとり親家族で姉と2人兄妹。母親の話を聞いた上で、中津市の特別支援教育担当とも協議し、とりあえず母親の希望にそうやり方で対応し、現在は森の家のケアにつなげつつある。
- ⑨ Jくん：0歳1か月男児。低出生体重児。出産後母親が不安定となり、体重増加不良で中津市民病院小児科受診。母親の体重35kg以下で妊娠中推移しており、あとで母親の拒食症がはっきりした。母方祖母の話では思春期よりやせ傾向があり、専門医が診れば明らかに拒食

症であるがどこにも医療機関に相談していない。生理も止まっていたりしたので、本人も含め妊娠しないと思っていた所、急な妊娠となったそうである。中津市民病院小児科の保健師との連携で、現在、「私が食べんき、赤ちゃん小さかったんやろうな」「赤ちゃん小さかったけど、ちゃんと生まれてきたんやから、私が今から、ちゃんとせんといけんな」などの言葉が出てきつつあるので、今後も慎重なケアが必要である。先々は、子育て支援課にもつなぎ、育児支援家庭訪問事業の中でのケアも必要と考えている。

- ⑩ Kくん：2歳0か月女児。父親を突然癌で亡くしている。母親が不安定となり、父親も採血で癌が見つかったので、この子も採血を定期的にしなければ心配であると訴えた。母親が父親の病気の告知とその後の経過で受けたトラウマのケアを行っている。このような時、ただ単に、母親の考えはナンセンスであると否定するのではなく、必要最低限の検査をしながら、母親を安心させ、徐々に通常の考え方ができるようにする必要がある。初期の対応を間違えると、虚偽性障害などの問題を引き起こすことがあるので、慎重に行っている。

《事例総括》

ある時期の4か月間で実際にかかわっている代表的な事例をあげているが、その他にも、うつ傾向のある母親4家族、中津市民病院小児科の事例のスーパーバイズ（他機関との連携の一環として、無報酬で行っているので子育てとしてカウントしている）、保育所3施設、教育委員会特別支援教育関係の就学前の相談（従来の適性就学指導委員会への相談にもならず、入学すると問題が起こりそうな事例への相談）など、専門的な知識や技術のいるものを、地域子育て支援拠点事業の医療型として、活動を続けている。

中津市の場合、如水保育園が地域子育て支援センターとして当院より先に活動されていて、その活動を理事長が毎年支援しながら、このような医療型のケアも必要ではないかと考えた。保育所型の地域子育て支援センターと一律に考えると、役割が異なることが明白であると思う。

今後、「こんにちは赤ちゃん事業」が進み、「重度の子ども虐待から、軽度を区別するのではなく」、「より健康な集団から気になる家族へのケア」を始めると、必ずこのような形の地域子育て支援センターが必要となると思われる。

文責：井上登生

6. 医院と支援センターとの連携について

以上述べてきたことを考えると、「医院と支援センターの連携」で重要なことは次のようなことになる。

通常の小児科単科開業診療所における保険診療においては、3分診療という言葉に象徴されるように、短い時間の中で、多くの患児を診ることが多くなる。このような形態では、子ども

とその家族の生活場面や親子の相互関係を直接知る機会が限られてくる。子どもが泣いてばかりいる、寝ない、食べない、子どもとうまくいってない気がする、どうやって育てたら良いか解らないなどの外来で養育者が訴える多くの問題を理解するには、子どもと養育者の相互関係を直接観察し、他者とのコミュニケーションをどのように構築していくか、子どもの発達段階の評価、養育者の評価など様々な多角的な観察が必要となる。また、子どもが生活する保育所や幼稚園、学校などでの行動パターンなどを知ることとても重要となる。

このような時、支援センターなどが併設してあると、子どもと養育者だけ、少人数の親子グループ、大人数の親子グループ、同じような悩みを持つ親子グループなど様々な形態の場面で、子どもと養育者の関係を評価できる。また、子どもの家庭以外の生活の場との連携も日頃の研修会や相談会などで構築できていると、困ったときに電話一本でも顔の見える連携が可能となる。

このような流れるような連携により、「子どもが泣いてばかりいる」という主訴で来院された親子の真の問題を解明し、より有効な支援をする事が早い段階から可能となる。

具体的な連携として、理事長と支援センタースタッフのミーティングも午前中の診療開始前に、状況によっては1時間でも取ることができるし、昼間何かあった時でもすぐ対応を協議できる。

このような連携を意義のあるものにするには、当院理事長のような厚労省の子どものこころの診療医制度レベルⅢの発達行動小児科学や地域小児科学の専門医がいることが重要であるが、レベルⅡの医師でも施設の専門性に準じて研修を修了すれば、充分に対応できると考える。

7. 課題

センター活動を通して見えてきたことのうち、今後の課題と考えられることとして、次のようなことがある。

① 子どもとうまく遊べない、遊ばない養育者の増加

様々な発達段階にある子どもが、何を養育者に望んでいるのか、どのように関わればうまく遊べるのかなど、子どもの発達に関する知識不足、子どもの取り扱い方の技術（スキル）が稚拙な養育者が増えてきている。子育て支援のプロとして養育者を見ていくと、我々が逆に教えられるほど上手に遊ぶ養育者が増えたなと思う反面、子どもの要求や子どもの発達段階に見合った対応がほとんどできない養育者も増えている。

子育て支援事業が、手を替え品を替えて次々と登場する中、一部の養育者は、自分の子どもが目覚めている間に一緒に過ごす時間が1日に3時間もないと訴える。その時間も家庭での自分の仕事もあるので、ゆっくり子どもと対話しながら過ごす時間など、ほとんど無いに等しいと言う。このようなことを訴えることが多い養育者を見てみると、センターに来て、ずっと

携帯やスマホをしていたり、子どもが少し危険な遊びにトライしていても、側で見守る行動はほとんどなく、実際に怪我をしたりすると、子どもを大声で叱り、センター職員に文句を言う。

我々は、常に養育者参加型の子育て支援を目指しているが、養育者が施設利用中フリーになれる子育て支援施設が新たにできると、上記のような養育者はそちらにさっさと移行して行く。スマホを利用してあっという間に連絡を取り、利用者の流れが変わるので、何ともしがたい時代になってきた。

地域の子育て支援施設が、地域としてある程度のポリシーを持って、同じ方向を向いた子育て支援ができることが必要と思う。ただ、利用者の家族背景とニードは、実に多様化しているので、子どもとその養育者にとっての最善を心がけるのは当然である。それでも、多少手間暇がかかり面倒でも、子どもにとって、よりベターなかかわりを続けていきたいと思う。

② 診療所小児科医が地域の子育て支援システムへ積極的に参加することを望む

平成25年8月、第23回日本外来小児科学会（会長：福岡市の下村国寿先生）の会長シンポジウム「こどものためのコンダクターになろう」で、小児科医のアウトリーチが取り上げられた。本編の最後に私の履歴をのせているが、地域の中で診療以外にこのような活動を続けながら、多職種との顔の見える連携を心がけている。

診療所小児科医は、日頃の診療、乳幼児健診、予防接種、園医・校医などで、乳児期から子どもと養育者と接している。母子保健、児童福祉、学校保健などの各事業とともに、子育て支援事業にも積極的に参加し、現在の子どもと養育者が生活の場でどのように過ごしているかを把握することは重要である。

今回報告したような事例は、小児医療の現場でよく遭遇する。保険診療だけではカバーしきれないため、ほとんどの小児科医がボランティア精神で対応している。そのほとんどが、子育て支援事業と連動することで、多職種との連携の中、子どもと養育者にとって有用かつ効率的なケアができるようになる。

今後、大学の小児科学講座の中でも、このような知識を学ぶ機会を積極的にもうけて、新しく小児科開業医となる医者は、すべてこのような対応ができるようになることを望んでやまない。

文献

- 1) 井上登生、現在開業小児科者、大分県小児科医会会報1995；7：38-40.
- 2) 井上登生、他、大分県中津市における母子保健システムネットワークづくりについて；特にグレイゾーン・maltreated child の取り扱いを中心に、大分県小児科医会会報1997；9：31-34.
- 3) 井上登生、心と身体を統合した小児医療、小児の精神と神経1999；39：295-303.
- 4) 井上登生、子どもの心の問題に対する診療現場での対応、日本小児科医会第1回「子どもの心」研修会後期講演

集1999：89-106.

- 5) 井上登生. 子どもの心に影響を与える学校・地域社会の問題. 小児科臨床2001；54：1103-1110.
- 6) 奥山眞紀子、氏家武、井上登生編. 子どもの心の診療医になるために. 東京：南山堂；2009
- 7) 井上登生. 虐待をしている養育者への対応. 小児科診療2005；68：305-311.
- 8) 井上登生. ネグレクト. 小児内科2010；42：1823-28.
- 9) 井上登生. “子ども虐待” マネジメント. 田原卓浩編. 小児科医の役割と実践：ジェネラリストのプロになる. Pp：118-124. 東京：中山書店；2013.
- 10) 井上登生. 周産期からの子ども虐待予防と小児科医の役割：ゼロ歳児からの死亡ゼロを目指して. 日児誌2013；117：570-79.

いとうえ なるお
井上 登生

略歴

昭和58年 福岡大学医学部卒業

同年 福岡大学医学部小児科入局

昭和61年9月～昭和63年3月

英国ロンドン大学児童青年期精神医学部門留学

: D.C.A.P.; Diploma of Child and Adolescent Psychiatry 取得

昭和63年4月 福岡大学筑紫病院小児科

平成元年6月～平成4年3月

重症心身障害児(者)施設久山療育園

平成4年4月～平成5年1月

福岡大学医学部小児科助手

平成5年2月

井上小児科医院(副院長)

平成6年4月

井上小児科医院(院長)

平成10年10月

井上小児科医院新規移転およびリハビリテーション部(中津発達行動相談室) 増設

児童デイサービス事業(森の家) / 地域子育て支援センター(木もれび): HPあり

相談窓口: 保育士(松本) 住所: 〒871-0027 中津市上宮永友の町13-4

電話: 0979-26-1256 FAX: 0979-22-3175

平成22年4月

福岡大学臨床教授(小児科学)

社会活動(平成25年3月現在)

日本小児科学会会員(専門医)

日本小児心身医学会評議員・理事(平成2年7月～平成20年3月)

日本小児精神神経学会評議員・理事(第86回学会会長)(平成13年6月～現在)

日本小児科医会子ども心対策委員(平成9年～平成21年)・子どもの心相談医(認定)

日本小児科学会大分地方会幹事（平成9年4月～現在）
大分県小児科医会理事（平成9年4月～平成12年3月、平成15年4月～現在）
中津市医師会理事（平成12～15年度）（平成24年度～現在）
中津市次世代育成支援行動計画策定委員会会長（平成16年4月～平成17年3月）
中津市次世代育成支援行動計画協議会会長（平成17年4月～現在）
中津市児童虐待防止ネットワーク協議会→中津市要保護児童対策地域協議会副会長
中津市教育委員会適正就学指導委員会副会長（平成12年10月～平成20年3月）
中津市鶴居小学校校医／光保育園・第5保育所園医／知的障害児施設恵光園園医
中津市教育委員会ふれあい学級（適応指導教室）相談員（平成5年4月～現在）
中津市乳幼児健診医（平成5年4月～現在）
中津児童相談所乳幼児精密健診医（平成6年～平成16年）
中津児童相談所非常勤嘱託医（MSV：平成6年4月～平成24年3月）

4 山口県山口市

～愛児園湯田保育所 子育て支援センター “ひだまり” 地域支援活動の事例報告

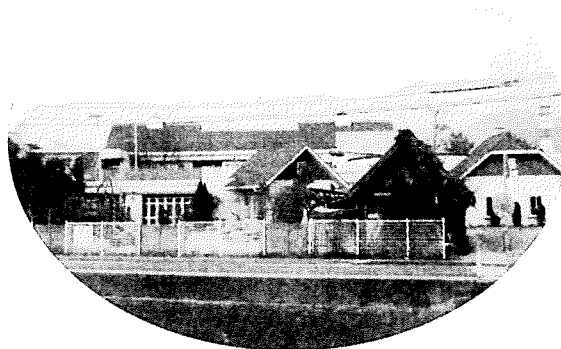
岡村美恵子

1. テーマ

「であい、ふれあい、そだちあい、
たのしい子育てを！」

2. 施設名

愛児園 湯田保育所
子育て支援センター “ひだまり”



3. 執筆者名

子育て支援センター “ひだまり” 担当 岡村美恵子

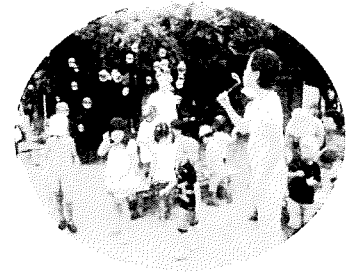
4. 園紹介

- ・山口市湯田温泉近くに位置し、昭和44年4月に山口市下市町に開所。
- ・昭和56年4月、障害児保育施設が完成し、障害児統合保育を実践。
- ・平成15年4月老朽化に伴い、現在の富田原町へと新築移転し、同時に敷地内にあったログハウスはそのまま移転『支援センター “ひだまり”』を開設。
- ・平成17年には子ども発達支援センター愛が併設され、園児との交流や行事参加などを行っている。

5. “ひだまり” ってどんなところ？

- ・利用日……………月曜日から金曜日まで（週5日型）
（園の行事や地域の行事によって土曜日に開放する場合がある）
- ・利用時間……………9時30分から14時30分まで（お弁当持参OK!）
- ・グループ活動……………4月から3月まで、1年間の登録制で0歳児から3歳児の親子
（8グループ編成・月一回活動）
- ・園庭・ルーム開放日……………毎週水曜日と活動日以外は園庭・ルームを開放し、登録以外の方も自由に交流できる。

親子で一緒に遊んだり、
わらべうた遊びを楽しんだり、
おしゃべりをして親の仲間づくりをしています。



6. どんなことをしてるの？

★ “ほっ” とできる居場所作り

- ・親子と一緒に遊んだりおしゃべりをしたりして、親の友達作りも大切にしている
- ・各グループの子ども達は様々な年齢の子ども達で構成し、遊びの中で子どもへの関わり方や悩みなどお母さん同士が学び合っている
- ・いつでも気軽にお話や相談ができるようにしている
- ・ほっとできる空間づくりを心がけ、冬はこたつと火鉢を備えている
- ・園の行事に参加する（夏まつり、運動会、おいもパーティー、レストランごっこ、クリスマス会、おもちつき等）

★グループ活動

- ・お誕生日カードのプレゼント…みんなでハッピーバースディの歌をうたってお祝いをする（手形・足形を押した手作りカード）
- ・毎月、簡単クッキングを親子で楽しんでいる
- ・親子でふれあい遊びや相談ができるようにしている



ほっとコンサート

★ひだまりだより

- ・ひだまりだよりを毎月発行。
- ・毎年一年の終わりには、さよなら文集「ママからのぽかぽかメッセージ」を製作（今年度で11冊目）

★心と体が元気になるために…「ほっとコンサート…」生の歌声とピアノで心を癒す

- ・「どんぐり講座」…保健師さんや併設されている発達支援センターの言語療法士さんや作業療法士さんのお話
- ・お手玉あそびで笑顔いっぱいになったり、親子リトミックやフラワーアレンジメントなどでリフレッシュ！
- ・「しあわせ講座」園長の話で、お母さんの心もほんわか…

★園外に出かけてのほっとな体験

- ・SLでのひだまりの旅…2日間に分けて、長門峡で川遊びやスイカ割を楽しむ
- ・バス遠足…リンゴ狩りに出かけて、もぎたてのリンゴを丸かじり

★地域支援活動として

- ・母子保健推進委員さんのサークル活動のお手伝い（親子ふれあいあそびなど）

- ・地域イベントに共催し、園庭開放をして親子で楽しめる活動を行っている（野焼きパン作りや人形劇など）



スイカ割



バス遠足



もちつき

ひだまりのお父さんも
大活躍！

7. 地域支援活動への取り組みのはじまり

平成21年より、活動の場をセンター内からセンター外へ“輪”を広げようという事で「出向いて行く」支援活動を始める。

当園支援センターから近い地域が大歳地区なので、大歳地区の母子保健推進員（以下、母推という）さんへ支援センターの活動支援のお知らせをすると、年間計画へすぐ取り入れて下さり、「親子であそぼう」の活動をさせてもらう。親と子のふれあい遊びは「見て楽しむ」「参加して楽しむ」活動を基に、母推さんも巻き込んだ活動となった。地域の広報紙にも情報発信をする。

その後、山口市小郡の母推さんからも声がかかり、小郡光が丘での活動がはじまる（今年で5年目、現在に至る）。参加者には子育て支援センターのお知らせと活動を紹介すると、顔なじみになり、安心して支援センターへも来やすいようで、地域外からの利用者も増える（今年度は2か所増え、活動の場が広がる）。

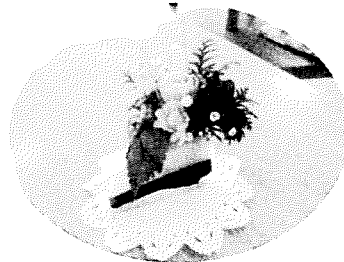
母推さん達の研修にも声がかかり、親子で遊べる歌遊びや手遊び、簡単にできる手作りおもちゃ等の講習会を講師として行った。

また、「出向いて行く」事がきっかけとなり、母推さんが“ひだまり”へ「講師」として活動支援をしてもらうようになる。

現在も支援センターの親子とふれあい、交流を続けており、互いに支援の場が広がって良い関係が保たれている。



フラワーアレンジメント講座



毎年クリスマス前に行うので、かわいなお花やオアシスの形を母推さんが考えて下さり、参加者にも大好評！

*活動をはじめた平成21年より、毎年12月に実施（今年度で5回目となる）。

母推さんも優しく丁寧に教えて下さり、人気の講座となった。

<参加されたお母さんの感想>

- ・初めての経験で楽しかった。
- ・子どもと一緒にできるのでよかった。子どもも楽しんでいた。
- ・リフレッシュできた等。

3. 事例の紹介

～初めての地域活動～

平成21年11月11日（水）

『子育て講座』

～大蔵交流センターにて～



参加者……大人 14名

子ども 18名（0歳児～1歳児）

活動内容…手遊び、わらべ歌、シフォン遊び

踊り、劇、親子で宝探し等

☆遊んだ後はおやつタイム～

（おやつを食べながら今日の感想を話す）



さあ～、何がでてくるかなあ～？

<講座に参加したお母さんたちの感想>

- ・子どもとどう関わっていいか分からなかったが参加してとても参考になった。
- ・はじめて参加したが、また参加したい。
- ・色々な遊びのアイデアがあり家でもやってみたい。

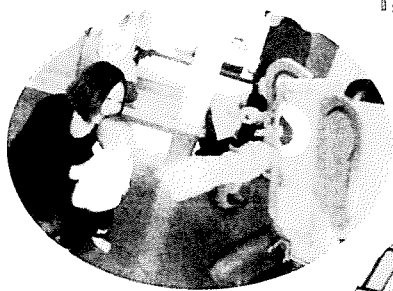
<スタッフの感想>

- ・初めての試みだったが、お母さんや子ども達が喜んでいる姿が見れて嬉しかった。
- ・活動参加が初めての方ばかりで、一つ一つの遊びに楽しんでいる反応がとても新鮮で、やっている私たちが感動した。
- ・母子保健推進員さたちも巻き込み、楽しさを共有することができた。

平成22年5月12日(水) 地域子育てサークル「ひまわり」

「親子で遊ぼう」

～小郡光が丘公民館にて～



ほお～ら、ぞうさんだよ



さあ～、おかあさんこいのぼりから
赤ちゃんこいのぼりが産まれたよー！



母子保健推進員さんにも
お手伝いしてもらって…
みんなで楽しめます！

平成22年6月9日(水) 母子保健推進員研修会(小郡支部)

～小郡光が丘公民館にて～

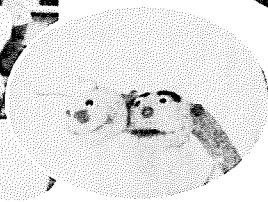


手作りおもちゃの完成！
自分似の!? 「青虫くん」が出来上がり、
皆さんの顔もにっこり♡

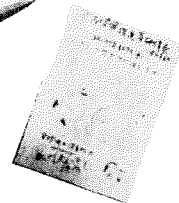
活動の後は、みんなでおやつ
を食べながらワイワイと会話
で盛り上がり「先生、あの…」
と和やかな雰囲気の中で“相談
のきっかけの場”にもなっ
ている。



皆さん真剣な表情で聴かれて
いました。



～シフォン遊び～



* 参加された親子を見送った後、母推さんと反省会を兼ねた情報交換を行っている。お互いに相談の内容の確認や気になる親への支援等の意見交換をし、とても有意義な時間となっている。

平成25年12月10日(水) 新しい活動場所…

子育てサークルわんぱくクラブ「クリスマス会」

～山口市小郡南公会堂にて～



～会場はたくさんの親子でいっぱい！～

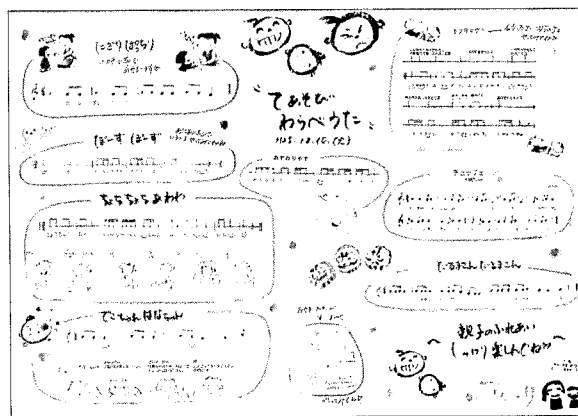
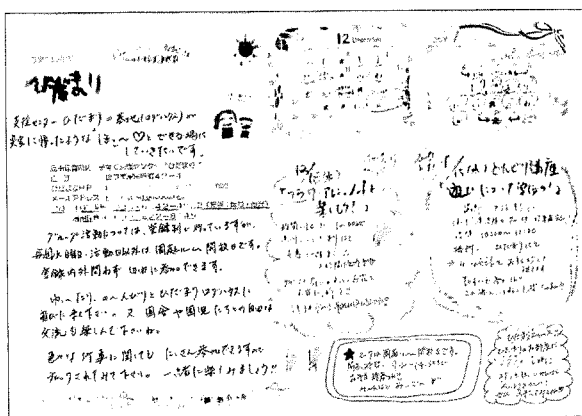


～うちわシアター～

<参加されたお母さんの感想>

- ・「参加しようか…」を迷ったが、気分転換になり出て来て良かった。
- ・子どもと一緒に参加して楽しかった。
- ・お手玉、なかなかする機会がないので体験できてよかった。
- ・このような場に久々に参加できて、自分自身の心が“わくわく”しました。

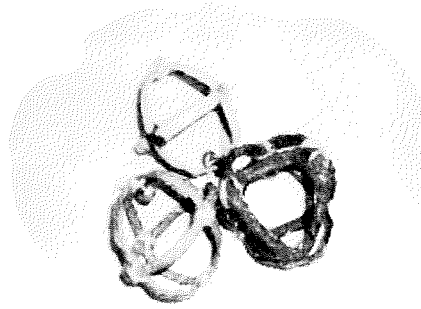
～参加された方に配布したおたより～



登録されていない方の為に毎月発行しているおたより。行事予定や講座等のお知らせを載せて情報を発信。気軽に来てもらえるよう工夫している。

活動で行った遊びやふれあい遊びなど季節に応じて紹介。親子で触れ合って遊べるきっかけづくりになれば…。

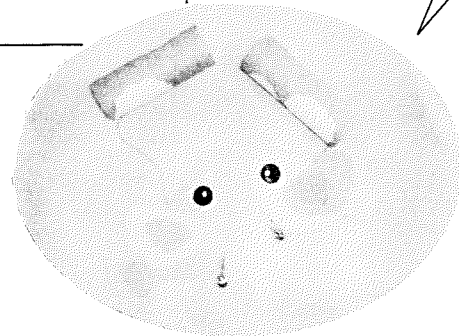
配布場所…山口市保健センター・子育てサークル(元ひだまりさんのお母さんが活動されている所)・園の産休、育休のお母さん・支援センターひだまり等



新聞紙で作った“ガラガラ”…鈴もついて音が鳴る。

劇の中で“手作りおもちゃ”をプレゼント！季節や年齢等を考慮しながら、スタッフが愛情込めて製作。親子で大変喜ばれている。

トイレットペーパーの芯を使ったおもちゃ、持ちやすく好評でした。



9. 地域支援活動実績

日時	活動場所	参加人数
平成21年 11月11日	大歳地域子育てサークル 「子育て講座」 ～大歳交流センター～	大人 14名 子ども 18名 合計 32名
平成22年 5月12日	小郡地域子育てサークル（ひまわり） 「親子で遊ぼう」 小郡光が丘公民館	大人 18名 子ども 21名 合計 39名
平成22年 6月9日	母子保健推進員研修会（小郡支部） 小郡光が丘公民館 （講師として）	母子保健推進員 （保健師を含む） 合計 22名
平成23年 7月11日	小郡地域子育てサークル（ひまわり） 「親子で遊ぼう」 小郡光が丘公民館	大人 19名 子ども 27名 合計 46名
平成24年 7月13日	小郡地域子育てサークル（ひまわり） 「親子で遊ぼう」 小郡光が丘公民館	大人 14名 子ども 16名 合計 30名
平成25年 7月10日	小郡地域子育てサークル（ひまわり） 「親子で遊ぼう」 小郡光が丘公民館	大人 19名 子ども 27名 合計 46名
平成25年 12月10日	小郡地域子育てサークル（元気キッズ） 「クリスマス会」 小郡南公会堂	大人 28名 子ども 30名 合計 58名
平成26年 1月31日	小郡地域子育てサークル（わんぱくクラブ） 小郡健康福祉センター	大人 20名 子ども 25名 合計 45名

尚、平成21年12月より、母子保健推進員さんに“ひだまり”へ「講師」として招き、「フラワーアレンジメントの講座」を毎年開くようになる。現在も継続中。

10. 地域支援活動を通して

地域へ出向くことで…

- ・お母さん達が支援センターを知る事ができ、地域内、地域外の活動に参加するきっかけづくりとなり参加者も増える
- ・遊びを紹介することで親子関係が深まる
- ・お母さん同士の仲間づくりの輪も広がる
- ・保育士という事もあり、相談もし易い
- ・母推さんや保育士、互い良い刺激になり活動の場も広がる

これから…

- ・おたよりやホームページなどで情報発信を多くし、地域に出向いて行く機会を増やす
- ・母推さんとの地域支援を継続し、より多くの親子支援への輪が広がるようにする
- ・気になる家庭については、母推さんや保健師さん、専門機関へと繋げられる支援や連携をすること

最後に…

地域支援活動を始めて5年が経過し、以前出会ったお母さんから、「支援センターがどこにあるのか知らない」「保育所は敷居が高くて行きづらい」という話を聞いた。

私たち保育士が地域へ出向いて行く事により、地域の間へ参加する親子が保育所内の支援センターという場所をより理解してもらえるようになり、「話ができる場」であり「聞いてもらえる場」として「今度は支援センターに行ってみよう」と、家庭から外へ出るきっかけになると考えられる。

活動を通して、保育所での経験や専門知識を活かし“保育士”だからこそできる支援を求められているのだと強く感じた。私達自身も緊張はあるが、“子育ては楽しいよ”と子育てを楽しんでもらうためのお手伝いが少しでもできたらいいなと考えている。お父さんやお母さん、子ども達の笑顔がたくさんみれるように活動をしている。

地域の受け入れや母推さん達の理解があるからこそ、現在も地域支援活動が継続してできていると感じている。

地域支援の場が「子育て中の親にとって“ほっ”とできる場所」で、「子育ては大変だけど、でも楽しい」と感じ「共感し合える場」であるために、“ひだまり”は地域に根ざした支援センターとして、子育てを頑張っているお父さん、お母さんたちの応援団としてこれからもありたい続けたいと思う。